

今月のコンテンツ

- 彩の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラムからのご報告
- ひょうご社会医学系専門医研修プログラムからのご報告
- 今月のお知らせ
- (広報担当) 秋の情景

研修プログラムからのご報告

「彩の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラム」について

彩の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラム統括責任者
埼玉医科大学医学部社会医学 教授
亀井美登里

埼玉県には、「埼玉県社会医学系専門医研修プログラム」と「彩の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラム」の2つのプログラムがあります。前者は、埼玉県が行っている主に公衆衛生行政を担う医師の確保・育成を主眼とするプログラムです(社会医学系専門医協会ニュースレター9月号で本多麻夫先生がご紹介されています)。後者が、埼玉医科大学を基幹施設とする当プログラムです。

ご存知の通り、埼玉県は2025年に向けて高齢者人口(75歳以上)が全国一のスピードで増加する一方で、人口10万人当たり医師数は全国で最も少ない現状で、医療・介護を担う人材の確保は喫緊の課題となっています。まれにみる超高齢社会の到来で、地域医療・介護など様々な現場で、社会医学的マインドを持った医療人の活躍が求められています。

「彩の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラム」では、公衆衛生医を目指す医師の育成に加えて、社会医学的マインドをもって地域医療を実践できる臨床医の育成も目指しています。埼玉医科大学の持つ幅広い専門性と多様な連携施設での研修体制を活かし、社会医学系専門医研修のすべての領域にわたり選択可能なプログラムとなっています。研修連携施設として、「医療」の分野では、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、丸木記念福祉メディカルセンターの4施設があり、それぞれの特色に応じた研修を受けることができます。例えばJCI(国際医療機能評価機関)認定病院である埼玉医科大学国際医療センターでは、最先端の医療現場で、医療の質の向上と患者安全に焦点をあてた実践的研修を受けられます。丸木記念福祉メディカルセンターでは、病院部門、介

護福祉部門を合わせ持つ施設における地域包括ケアなど保健医療福祉を繋げる地域連携等多彩な研修ができます。「行政・地域」では、厚生労働省、国立保健医療科学院、埼玉県内の保健所、埼玉県衛生研究所など、「産業・環境」では、埼玉県産業保健総合支援センター、日立製作所などがあり、各領域において専攻医の希望内容に沿って多様な研修形態が可能となっています。

現在、2名の専攻医が「彩

の国埼玉医科大学社会医学系専門医研修プログラム」の履修をしています。専攻医（「医療」を主分野）の活動として、病院における医療・健康関連システムに関する管理研修や、病院での患者ケアの質の向上を目指す取り組みについての学会発表活動などに取り組んでいます（写真参照）。専攻医の日常診療業務から生じる素朴な疑問

<専攻医の活動、学会発表風景>



<研修施設群>

埼玉医科大学病院



埼玉医科大学交際医療センター



埼玉医科大学総合医療センター



や問題意識について、社会医学的視点を通してくみ取る形での研修の実施や社会医学系観点からの学術活動の充実等日々研修に励んでおります。

今後更なる研修プログラムの充実を図り、異次元の超高齢社会を迎える埼玉県の医療介護の現場で、社会医学的マインドを持って活躍できる医療人の育成に努めて参りたいと考えております。



研修プログラムからのご報告

ひょうご社会医学系専門医研修プログラム

兵庫県洲本健康福祉事務所長（洲本保健所長）

鷲見 宏

社会医学系専門医研修プログラムは、2016年10月から認定がスタートしていますが、ひょうご社会医学系専門医研修プログラム（以下、「ひょうごプログラム」）については、2016年11月に認定されており、全国で4番目の認定となっています。ひょうごプログラムの初代統括責任者が山本光昭前兵庫県健康福祉部長（現在、東京都中央区保健所長）で、全国衛生部長会を代表して、社会医学系専門医制度の創立当初から参画されていた事もあり、早い段階から、ひょうごプログラム立ち上げの準備作業を開始しました。作業開始に当たり、山本先生から、兵庫県保健所長会に協力依頼があり、当時の会長の大橋秀隆先生からの指名で、私が実務作業をお手伝いすることとなりました（現在、ひょうごプログラムの事務局長を務めています）。まず、プログラムの作成と共に、連携施設・協力施設の選定・協力取り付けを進めました。日頃からの良好な関係を踏まえ、ほとんどの施設には快く協力いただきましたが、産業医活動を実地に学ぶ施設については、当初、確保に苦しみました。兵庫県の行政医師は、産業医に選任されており、長時間勤務の面接指導等を実施していますが、そういった限定的な産業医活動ではなく、製造業等を想定したフルでの産業医活動を実地に学べる施設を考えており、最終的には、兵庫医科大学の島正之教授のご紹介で、デンソーテン健康推進室の五熊丈義先生にご協力いただけることになり、連携施設・協力施設のラインアップが固まりました。

ひょうごプログラムは、兵庫県健康福祉部を研修基幹施設とし、政令指定都市である神戸市、保健所を独自に設置している4市（尼崎市・西宮市・明石市・姫路市）及び兵庫医科大学公衆衛生学講座と連携して運用するものであり、兵庫県・各市がそれぞれ採用した行政医師及び兵庫医科大学所属医師に対し、社会医学系専門医の資格取得を希望する場合に、専攻医として、様々な研修連携施設等での研修の機会を提供するものです。（現在、協力施設として参加いただいている、神戸大学大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座疫学分野が指導医在籍により連携施設に移行すれば、神戸大学所属医師についても対象とする予定です。）

兵庫県の他には無い特色は、「国内随一の多様な地域性」で、摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の旧5国からなり、京阪神の大都市圏を形成する畿内（摂津）、瀬戸内式気候で農業と共に臨海工業の発達した山陽道（播磨）、積雪地域で自然豊かな山陰道（但馬・丹波）、四国へと続く温暖な南海道（淡路）といった、日本屈指の多様性を有し、「日本の縮図」と呼ばれています。ひょうごプログラムの専門研修では、地域によって課題が様々に異なること、それぞれの課題に対応するため、地域の関係者と連携・協力しながら

対応していることを学ぶことができます。

また、兵庫県は、県庁所在地である神戸が我が国を代表する古くからの国際貿易港ということもあり、国の機関である神戸検疫所が所在する他、WHO（世界保健機関）の日本唯一の本部直轄国際研究機関である WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）が設置され、兵庫県と神戸市はその運営を支援しています。さらに、阪神・淡路大震災を経験した被災県でもあり、全国に先駆けて設立した県立の災害医療センターを有しており（センター長の中山伸一先生を始め、災害医学の先生方にも、専攻医の研修に非常に熱心にご協力いただいています。ちなみに、来年 2 月 20 日～22 日の日程で日本災害医学会総会が神戸国際会議場で開催されますが、中山先生が会長を務められます。）、こういった施設も含め、本プログラムには、行政機関、大学、健診機関、職域機関、研究機関など、極めて多様な施設が連携施設・協力施設として参加しており、他では得られないような、幅広い学びの場が用意されています。また、兵庫医科大学医療情報学教授宮本正喜先生が退官後も、新たに所属する民間医療機関を連携施設として引き続きご協力いただくなど、所属とともに、人的な繋がりを大切にされた運営を行っています。また、兵庫県医師会にも、設立当初から趣旨に賛同・協力いただいております、副会長の足立光平先生に、プログラム管理委員会に参加・ご助言いただいております。

現在、ひょうごプログラムには、5 名の専攻医が在籍しており、それぞれ、指導医のもと、日々、研鑽に励んでいます。公衆衛生に関心をお持ちの先生は、是非、兵庫県、神戸市、尼崎市、西宮市、明石市、姫路市及び兵庫医科大学に所属いただき、専門医の資格をお持ちでなければ、ひょうごプログラムにおいて、多様な学びを経験いただければと思います。お待ちしております！

今月のお知らせ

関連学会の総会/学術大会のお知らせです。

第 39 回医療情報学連合大会（第 20 回日本医療情報学会学術大会）

開催年月日： 2019.11.21（木）-24（日）
 テーマ： IoT 時代の医療情報の利活用
 代表者： 中川 肇（富山大学附属病院教授）
 開催地： 千葉市
 会場： 幕張メッセ
 事務局連絡先： 富山大学附属病院 医療情報部
 TEL：076-434-5005 E-mail：JCMi39@med.u-toyama.ac.jp
 開催案内 URL： <https://jcmi39.org/>
 運営準備室： 株式会社ケイ・メッド
 TEL：03-6803-1522 FAX：03-6803-1534 E-mail：kobayashi@keimed.co.jp



第39回 医療情報学連合大会
第20回日本医療情報学会学術大会

IoT時代の医療情報の利活用

令和元年(2019年)
11月21日(木)~24日(日)

会期
11月21日(木)~24日(日)

会場
幕張メッセ(千葉市)

大会長
中川 肇(富山大学附属病院)

プログラム委員長：美代 賢吾 (国立国際医療研究センター)
 実行委員長：奥田 保男 (量子科学技術研究開発機構)
 事務局長：辻岡 和孝 (富山大学附属病院)

Home
 大会長挨拶
 開催概要
 企画・演題募集のご案内
 学術プログラム
 参加・宿泊利用の申込
 託児所・授乳室のご案内
 参加者へのご案内
 座長・演者へのご案内
 関連会議のご案内
 協賛のご案内
 利益相反 (COI) 開示
 会議室利用のお申込について
 会場案内
 リンク
 English

第39回 医療情報学連合大会
 第20回日本医療情報学会学術大会

第30回日本疫学会学術総会

開催年月日： 2020.2.20 (木) -22 (土)

テーマ： 疫学と隣り合う諸科学：共にさらなる発展を

代表者： 中山 健夫

(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授)

開催地： 京都市

会場： 京都大学 百周年時計台記念館、国際科学イノベーション棟

事務局連絡先： <京大事務局> 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

<運営事務局> 株式会社日本旅行 西日本 MICE 営業部 内

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4 大阪駅前第4ビル5階

TEL：06-6342-0212 FAX：06-6342-0214 E-mail：jea30@nta.co.jp

開催案内 URL： <http://web.apollon.nta.co.jp/jea30/>



JEA

- ENGLISH >
- HOME >
- ご挨拶 >
- 開催概要 >
- 日程表・プログラム >
- 演題登録・演題採択一覧 >
- 事前参加登録・宿泊のご案内 >
- 参加者・座長・演者へのご案内 >
- ご協賛のお願い >
- 関連リンク >

The 30th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association

第30回日本疫学会学術総会

2020年
2月20日 木 ~ **22日** 土

**疫学と隣り合う諸科学
 :共にさらなる発展を**

会場 京都大学
 百周年時計台記念館
(〒606-8501 京都市左京区吉田本町)

会長 中山 健夫
(京都大学大学院医学研究科
 社会健康医学系専攻 健康情報学 教授)

第25回日本災害医学会総会・学術集会

開催年月日： 2020.2.20 (木) -22 (土)

テーマ： これでもいいのか、災害医療！

代表者： 会長 中山 伸一 (兵庫県災害医療センター センター長)

副会長 山下 晴央 (神戸赤十字病院 院長)

空地 顕一 (兵庫県医師会 会長)

小谷 穰治

(神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 教授)

開催地： 神戸市

会場： 神戸国際会議場、神戸商工会議所、アリストンホテル神戸

事務局連絡先： 学術集会事務局 兵庫県災害医療センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-1

運営準備室 日本コンベンションサービス株式会社 神戸支社内

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1 神戸国際交流会館6F

TEL : 078-303-1101 E-mail : 25jadm@convention.co.jp

開催案内 URL : <https://site2.convention.co.jp/25jadm/>

第25回

The 25th Annual Meeting of Japanese Association for Disaster Medicine

日本災害医学会総会・学術集会



[English ▶](#)

[HOME](#)

[開催概要](#)

[ご案内](#)

[日程表・プログラム](#)

[演題募集](#)

[事前参加登録](#)

[協賛・寄付のお願い](#)

[各種お申込み](#)



ポスターダウンロード
 PDF Download

会期 2020年2月20日(木)～22日(土)

会場 神戸国際会議場
神戸商工会議所
アリソンホテル神戸

会長 中山 伸一
(兵庫県災害医療センター センター長)

副会長 山下 晴央 (神戸赤十字病院 院長)
空地 顕一 (兵庫県医師会 会長)
小谷 穰治 (神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 教授)

座長・ご講演依頼 諸君
ご回答はこちら

秋の情景（広報担当より）

業務執行理事 日本衛生学会 川崎医科大学衛生学
大槻 剛巳

次の頁に週刊保健衛生ニュース 第2030号（10月14日発刊）の21ページに掲載されました社会医学系専門医協会の第1回専門医認定試験の記事を掲載します。記されているように25名が合格されました。既に、社会医学系専門医協会のWEBの「認定専門医・指導医リスト」の各県の欄に追加されていますし、今回の合格者のお名前と都道府県は一括して紹介してあります。

丁度、この文書を書いている今日は、午前中、私が所属している川崎医科大学の関連大学である川崎医療福祉大学に講義に行っておりました。終了後に大学に戻る途中でキャンパスを歩いていると、秋が、晩秋が一杯で、青空に色付いた葉がきれいに映えていました。そうかも11月かと、季節に追い越されている感触にハッとさせられました。



令和元(2019)年10月14日 第2030号

週刊 保健衛生ニュース

第三種郵便物認可

社会医学系専門医協会

第1回専門医認定試験に25人合格

来年は9月13日

社会医学系専門医協会（宇田英典理事長）は9月28日の理事会と定例総会で、8月に実施した第1回専門医認定試験の結果、受験した25人をすべて認定することを決定した。今回の試験は早期修了者等が対象であり、主分野は産業・環境の15人が最も多かつ

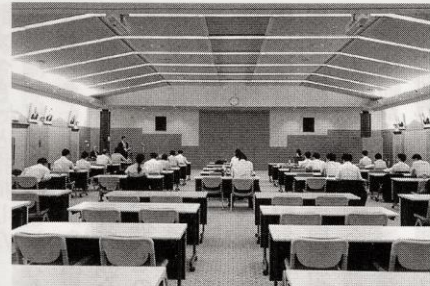
た。次回は2020年9月13日に実施する予定で、3年間の専門研修修了者らが受験することになる。

同協会による社会医学系専門医の専門研修は2017年度に開始した。認定試験の受験資格は専門研修プログラムの専攻医に登録し、原則3年の研修を修了した者だが、19年度と20年度は専攻医に登録していない経過措置受験生や早期修了者を含む。第1回認定試験は8月18日に日本医師会館で、筆記と面接、グループワークで実施した。

9月28日の理事会で専門医・指導医認定委員会が試験結果を報告。受験者25人（早期修了者5人を含む）すべてを合格とすることを承認した。25人の主分野は行政・地



理事会終了後の会見



第1回試験(8/18、同協会提供)

初めて受験することとなり、受験生が大きく増加する見通し。20年まで経過措置対象者も受験できる。来年4月に実施要綱等を公表する予定である。

同日の理事会は昨年度の事業報告や収支決算、監事の選任等をいづれも了承し、総会で承認した。

研修プログラムは既に全都道府県で整備されており、1プログラム増の74プログラムとなった。6月末時点の専攻医は288人である。研修プログラムで参加が必須となっている統括責任者の連絡会議は東京で12月8日、大阪で同22日に開催する予定。

また、経過措置で認定された指導医は2021年度末に更新時期を迎える。更新には3回以上学会に参加する等の要件があるため、今中副理事長は「更新ルールなどを協会ホームページなどでよく確認して、落ち度のないようにしてほしい」と呼びかけている。

今回の試験は2020年9月13日(日)に日本医師会館(東京・本駒込)で開催する。3年間の専攻医研修修了者は